

～包装容器を改善し三陸メカブの消費拡大～
株式会社及新（宮城県南三陸町）

目詰まりの現状

三陸地方のワカメ業者は、震災の影響で加工場等が被災し、生産能力が大きく低下した。一方でワカメ生産量は年々回復していることから、消費拡大の一環としてメカブに注目。刺身やサラダ等にトッピングする食べ方提案等を行い好感触を得たものの、従来の包装形態では食べきりタイプが主流で、開封後の保管に適さないため、消費が伸び悩んでいる。

そこで、開封後の保管に適した包装形態を検討したものの、従来の生産工程ではコスト高となることから、大量生産や機械化等によるコスト削減が必要とされている。

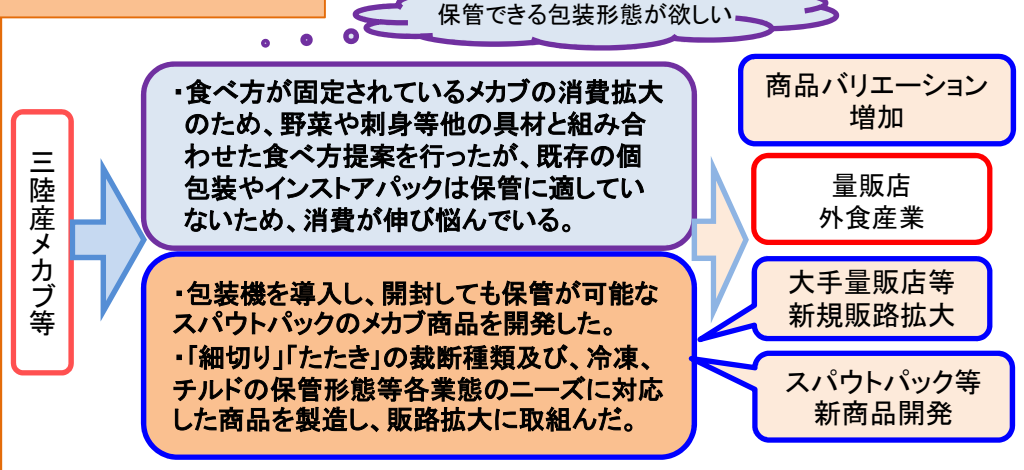
プロジェクトの概要

- 包装機を導入し、メカブの袋詰め作業を機械化することでコスト削減を図り、スパウトパック包装による新商品開発に着手した。
- 「細切り」「たたき」等のメカブの形状や、冷凍、チルド等の保管形態のバリエーションを増やし、様々な業態のニーズに対応した商品の案内を行った。

取組による成果

- 新規納品先として大手量販店との契約が成立し、家庭用サイズの販売量増加。
- チルド商品は飲食店、冷凍商品は商社経由でホテル等、新規業態への納品を開始。
- スパウトパック包装により、従来の個包装タイプと同じ箱でも、多くの数量を輸送することが可能になり、輸送コストが削減。

プロジェクトフロー



包装機



スパウトパック商品



スパウトパック商品



（平成31年3月現在）